

新年のご挨拶

一般社団法人日本病院薬剤師会
会長

北田 光一 Mitsukazu KITADA



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな気持ちで、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成28年の年頭にあたり、日頃から日本病院薬剤師会（以下、日病薬）本会の活動にご理解とご協力をいただいております皆様に御礼を申し上げますとともに、新年のご挨拶を申し上げます。

人口構造、疾病構造が激変するなかで、高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた適切な医療を、地域において効果的かつ効率的に提供する体制の整備のための様々な検討が進められております。地域の実情に即した病床の機能分化と連携強化、在宅医療・介護サービスの充実と連携システムの構築であり、身近にあっては医療従事者等の確保・養成や勤務環境の改善、チーム医療の推進等であります。

医療環境の変化に伴い、私たち薬剤師に求められる業務内容や役割は拡大しておりますが、医薬品の適正使用・的確な薬学的管理の実践に基づいた個々の患者に対する最適な薬物治療の提供と医療の安全確保への貢献が基本的な使命として期待されています。日病薬としては、チーム医療の推進への積極的な取り組みを通じて、この期待に応えるべく、薬剤管理指導業務にかかわる業務と病棟薬剤業務実施加算にかかわる業務を含む病棟業務の通常業務としての定着、さらには各施設の実情に合わせて集中治療室や手術室等の中央診療部門や外来を含めた「薬あるところ」での薬学的管理の充実・展開を図り、医療の質向上と安全確保に貢献することをお願いしているところであります。

一方、チーム医療の進展に伴い、その一員としての薬剤師の力量、真価がこれまで以上に問われてきます。医療の進歩、医療環境の変化に伴う社会の期待に対応するために、常に薬剤師としての資質向上に努めることが大切であります。さらに、医療の高度化・細分化が進むなかでより専門性の高い薬剤師が果たすべき役割も増大しており、責任をもって行動できる特定の専門領域をもち、その専門領域の薬物療法に関して主体的な役割を果たすことができるレベルにあることが必要となっております。

また、患者およびほかの医療スタッフから評価される客観的な臨床上的アウトカムを、エビデンスとして積み重ねることが私たちのさらなる展開において大事なことであり、これは医療の質の向上に貢献することになります。各施設において薬に関することについては責任をもってかかり、患者の視点に立った医療への貢献を介して信頼される存在となることを切に願っております。

さて、本年も引き続いて、「病棟業務の充実とチーム医療の推進」、「医療安全の確保」、「客観的エビデンスの蓄積」、「資質の向上」を重要課題として活動してまいりたいと思います。会員各位のご理解とご協力の下、薬に関する専門職の団体としての自覚と使命感をもって活動してまいりたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のますますのご活躍と、本年が皆様にとって明るい未来へ繋がる1年になることを心から祈念して、新年の挨拶と致します。